

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第31号

平成28年度障害者社会参加推進事業

ダンスフォーラム 「ドリトル先生とゆかいななかま」



平成二十八年十二月十日さいたま市浦和コミュニティレクリエーションルーム2にて、ダンスフォーラム「ドリトル先生とゆかいななかま」のダンスパフォーマンスをしました。

【ドリトル先生と一緒に暮らす動物たちの言葉が分かります。ある日南の島に暮らす動物たちから

伝染病がはやり助けて！との手紙を受け取り、動物たちと一緒に荒波の中、困難を乗り越え無事島に到着して、注射を打ち動物たちは助かりました。】

という物語をモダンダンス講師のアキオキムラ氏の指導のもと音楽とダンスで参加者たちと物語を作り上げました。

講師のアキオキムラ氏自身も自閉症協会会員（父親）でこの障害についてはよく理解されて

いて、参加の半分は自閉症児、者だったので無理強いしない、自身のおのづからの表現する力を引き出す指導にはどの顔も笑顔がいっぱいでした。

講師の先生の踊りはさすがにみんなを引き付けるものがあり、素晴らしいものでした。この日はさいたま市民マラソン開



埼玉県自閉症協会

さいたま市地区

米山恵美子

催日で交通規制があり、交通の便となにより人が集まってくれかとても心配でしたが、部屋が狭いくらいに六〇人収容の部屋が予想以上に八〇数人の人々が参加しました。

障害のある人ない人、通りがかりの人やファミリーなどがダンスパフォーマンスを繰り広げ老いも若きも年齢が関係なく楽しめた一日でした。

障害者差別解消法

さいたま市聴覚障害者協会
青山 淑子



さいたま市聴覚障害者協会

今年度の「生活訓練事業」でのテーマは「障害者差別解消法」で、一般財団法人全日本ろうあ連盟前理事の松本正志氏に講演して頂きました。

昨年四月から施行された「障害者差別解消法」で、国に対して交渉した経験から、様々な視点から差別をとらえ、分かりやすく講演して頂きました。

「これは差別だ」と自覚するた

オストメイトのための医療講習会

日本オストミー協会さいたま支部 野本喜代司

平成29年2月12日、浦和ふれあい会館にて、医療講習会を開

催いたしました。講師は埼玉県オストミー協会

めに、あらゆる場面での出来事に対し、周りの皆さんと対等にするにはどうすれば良いかを考えさせられた貴重な時間でした。全日本ろうあ連盟が発行した「よくわかる！聴覚障害者への合理的配慮とは？」の内容は分かりやすく、読んでいる私でさえ、それが差別だったことに気づいていなかったのです。それもその筈、長年我慢することに慣れてしまったのではないのでしょうか？

聴覚障害者は目に見えない障害ゆえに周りに理解されていないことが多いのです。是非この冊子を自覚していない当事者や理解の浅い社会の皆さんに読んで頂きたいと思います。

の顧問医、赤十字病院外科部長中村純一先生に「消化管ストーマの実際―適応疾患、増設法と合併症について―」同じく赤十字病院皮膚排泄ケア認定看護師小泉美紀先生に「ストーマの日常生活」と題してとても分かりやすく講演をいただきました。

今回、講習会開催の広報活動として、自治体への依頼(市報、市ホームページ、区役所、チラシ配布等)、市内病院、ストーマ補装具会社等へのポスター掲出やチラシ配布依頼の広報活動を実施した結果、当日は会員、

一般、医療関係者等76名の方が参加されました。

最近、「オストメイトのことを知りたい」と医療従事者や介護事業所の方々も関心を持っていただいております、7名の方が参加、一般の方も18名参加され、内3名が入会されました。

オストメイトの高齢化により生じる問題点などをオストメイト当事者と医療者、看護師と共に捉え、日常生活の不安を少しでも解消することが出来るような講習会に少し近づけた医療講習会でした。

宗澤先生にお越し頂いて

さいたま市手をつなぐ育成会
黒澤 篤子



宗澤先生

かすには、どうすべきかを埼玉大学准教授の宗澤先生から学びました。

今年の「家族教室」は、市のノーマライゼーション条例を活

講師の宗澤先生は、「百人委員会」の当初から関わりがあり障害者の権利擁護に深い理解を持つ方です。講師の話が進む中見える厳しい口調や強い語りから障害のある人を守るのと熱い

想いが感じられました。調査数値や相談事例を基に障害のある人の生活を解説されました。

実際の生活で「権利」を軽視している事。本人の思いをくみ取ってない事が語られました。

中でも、「二十歳を過ぎたら社会の一員として親元から離れ、本人の楽しみを見つけて生活をすべきです。この機に親業も卒業することも必要です。」と話されました。親業から離れられる社会の仕組みを整える必要性

「リカバリーをめざす食事と運動」

さいたま市精神障害者家族連絡会 伊藤眞里子

今年度の家族教室は10月23日(日)浦和コムナーレにおいて、国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部長・精神科医の功刀浩先生と国際医療研究センター国府台病院・管理栄養士の阿部祐二先生をお迎えして実施し、参加者67名が有意義な時間を過ごしました。精神疾患を抱えた方は抗精神



さいたま市手をつなぐ育成会

者団体は活動内容を見直すべきだとの提言を頂き多くの拍手で終了になりました。がある事を強く語られました。条例を得た事に満足せず、この条例を盾に障害のある人を守るために各障害

策(管理栄養士に栄養相談)をする事や喫煙を控えて適度な運動を継続すると、海馬が大きく(12%増)なり記憶力が改善する という結果報告もありました。家族教室開催に当たり、市や市障協の皆様に感謝を申し上げます。

共に作ろうみんなの輪 PART 9

さいたま市精神障害者当事者会ウィーズ 稲葉 晃

去る2016年10月29日私達ウィーズでは「共に作ろうみんなの輪PART9」としてNP O法人クッキープロジェクト代表理事である若尾明子さんを講師にお迎えし「スリッパ卓球が世界をまぜる〜狂人的に面白い」と言う演題で講演会を行いました。若尾さんはデコッパ(デコレーション)したスリッパでする卓球)の大会を主催されています。その大会では障害者も健全者もまぜこぜにデコッパを楽しまします。その為に卓球は、点数ではなく、どれだけラリーが続いたかで競います。また、デコレーションスリッパなので美術点もポイントとして入ります。そんな先生のお話です。当日は、会場に実際に大会で使われたデコッパも並びました。また、先生はクッキープロジェクトにも携わっていて、福祉作業所のクッキーをよりハイクオリティに「可哀想だから買う」と言うのではなく、本当に「欲しい」と思っ買ってもらえる物を作ると言う活動をなさっていて、その話もありました。当日は残念ながら参加者が少なめででしたが、良い会になったと思います。ありがとうございます。ありがとうございました。



精神障害者当事者会ウィーズ

第5回 『障害があっても ありのままに生きたいんです!』

埼玉県筋ジストロフィー協会さいたま市支部 猪瀬 剛

十一月十二日(土)『第五回障害があってもありのままに生きたいんです』を開催させて頂きました。

今回講師をお引き受け下さったのは、進行性筋ジストロフィーという難病を患いながら、日本アイ・ビー・エムに勤務し、「筋ジストロフィー」と掲げ、全国各地で歌と講演をされていらっしゃる小澤綾子さんです。「今を生きる」というテーマで講演と歌を披露していただきました。

マンマーチや中島みゆきの『糸』などのナンバーとともに、彼女自身の応援歌である『嬉し涙が止まらない』を熱唱しました。

この曲は小澤さんが筋ジストロフィーの告知を受け、自暴自棄に陥った頃に医師から『世の中を恨んで下を向いて生きても、誰もそんなあなたの側には寄ってこないよ』と諭され、自らのブログに想いを綴り、そのブログを通じて知り合った、同じ筋ジストロフィーにて寝たきり生活をしていながら、音楽活動をしていた故松尾栄次さんと意気投合、楽曲提供を受け、CD化、そして様々な場所で披露するようになった曲です。小澤さんのこれまでの想いを込められた歌はすごく感動的でした。

今年度の生活訓練は、講師に介護支援専門員の神崎好喜氏をお招きして、認知症と上手く付き合っていくために、認知症の定義と種類、一般的予防と早期発見・早期治療についてのお話しと簡単体操をおこないました。

また、本会の最高齢者のもとも元気な体験発表もありました。

日頃、アレッ何しにここに来たんだったかしらとか顔を知っているけど名前が出てこないというゲストをお呼びして来ましたが、私の想定を超えて本当に素晴らしい講演会でした。講演を務めて下さった小澤綾子さん、最後まで聞いて下さったお客様、音響やステージ等でご協力頂いたNPOライフアシストFamilishの皆さんありがとうございました。

認知症・痴呆症を正しく理解するために

さいたま市視覚障害者福祉協会 藤崎 明美

かなど忘れっぽくなりがちですが、これをほけたのかしらと決めつけてはいけません。老化による物忘れは、誰でもあることです。認知症とは違うものです。

おかしいと気づいた時には生活ぶりなどを記録しておくことが大事です。

介護問題・認知症問題は、これからは、誰もが抱えることになると思います。その中でいかに上手に暮らしていくかを考えるきっかけになりました。



災害から障害者の生命(いのち)を守る!!

それは全ての人の生命を守るいっしょになる〜パートII

障害者(児)の生活と権利を守るさいたま市民の会 平林 彰

市民の会開催の家族教室は、1月20日に、埼玉県障害者交流センターのホールで開催しました。

テーマは、前回に引き続き「災害から障害者の生命(いのち)を守る」〜それはすべての人の生命を守ることにつながる〜パート2

講師には、これも前回と同じ福島県相馬市から、郡(こおり)信子氏をお願いしました。

東日本大震災からほぼ6年になろうとしています。大地震と津波の被害だけでなく、原発の被害も受けた、南相馬市の障害者の方々の現状をお聞きして、災害対策に関する私たちの今後取り組むべき課題について学習しました。

災害時に、障害者に対する救



援、支援の体制について、南相馬市では行政や社会福祉協議会に加え、自立支援協議会にも加わって貰うことを働きかけているというお話は、私たちに新しい視点を加えてくれるものでした。

LET'S ENJOY!!

〜音でもさぼっ〜ブネメンツドロ

さいたま市ダウン症連絡会 鈴木なるみ

今年度の生活訓練は、前回好評だった、「ブネ・メソッド」を一月二十八日(土)、午前と午後の二回、行いました。

ブネ・メソッドは、スウェーデンのステン・ブネ氏が開発したブネ楽器を使って対象者に働きかけます。

ブネ楽器には、スウィングギター、ミニベース、単音フルート、チャイムバーなどがあって今まで楽器に触ったことのない人でも誰でも演奏が出来るものです。

簡単に合奏が出来るので達成感や満足感を得られます。

当日も時節柄、風邪などで欠席者も出ましたが、とても元気で明るい先生のご指導でその場が和やかな雰囲気になってちょっと緊張気味だった子供たちの



表情もしいに笑顔になって何曲も演奏して楽しみました。聴覚障害の方たちにも体験していただき、ミニベースの音の振動を感じてもらったり、ギターの演奏は二人ですることでもできるので体験してもらったりしました。二人でギターを演奏しているうちにより打ち解けることができみんながひとつになったような充実した時間を過ごすことができました。

障害福祉サービスから介護保険制度への移行について

さいたま市障害難病団体協議会 中野 昭江

一月三十一日、さいたま市大宮ふれあい福祉センターにてさいたま市保健福祉局福祉部介護保険課課長補佐 石渡友邦氏とさいたま市保健福祉局福祉部障害支援課課長補佐 杉井伊豆美氏のお二人を講師にお招きして家族教室を開催いたしました。八十九名の参加人数は当会として最多の講演会となり市民の介護保険制度の関心の高さを痛感しました。

まず、各講師に障害福祉サービスと介護保険制度の概要と各論を説明いただき、移行の際に利用者がいただく、手続き、サービス、利用金額への不安をわかりやすい話言葉で答えていただきました。介護保険制度への移行は、要介護の認定申請→審査↓ケアプラン↓さまざまな施設利用可能となります。その際、障害支援区分の認定や要介護認

定を受ける聞き取り調査は家族の方にも同席していただくように。それにより多方面からケースワーカーやケアマネージャーが本人の課題を解決する方向で組み立ててくれる。そして障害福祉サービスのみに存在するサービスは移行後も引き続き利用できるので迷ったら市役所の障害支援課のケースワーカーへ相談に来てくださいと安心感を得る回答で幕を閉じました。

最後に体調不良で欠席となった平林彰氏の体験談を司会者が読み上げ、体験談の感想に感銘を受けた参加者の笑顔で講演会は終了しました。



病と老いをきちんと生きる知恵と工夫

さいたま市身体障害者福祉協会 田口秀之助

本会は昭和二十五年身体障害者福祉法の施行を受け設立した、浦和・大宮・与野・岩槻身体障害者福祉会、四団体の連合体です。多くの会員は高齢者です。

高齢期になると「一病息災」などと言われます。

本会も、役員会などで何々さんが入院した、足が痛くて今日の会議に痛み止めを飲んで来た、などの話が多くなります。

役員会も全役員の出席は難しい状況です。障害があると通院も難しくなります。

また、夫婦二人暮らしも多く、単身者になった人もかなりいます。

私も後期高齢者夫婦世帯です。在宅診療を行っている医師がいらっしやるとの情報を得て、北与野駅近くで開業された「新都心ホームケアクリニック」院長小野充一先生に講演を

お願いしました。

先生は医者の一家に育ち、いつの間にか医師になったとのことです。大学で教育と研究に従事していたが、以前から白衣をきて仕事をしたいとの思いから家族の反対を押し切り、自分の医師人生の総仕上げとして患者さん、ご家族と向き合い今後は地域医療に尽くしたいとお話です。

講演に参加された人の中に、今後は小野先生にお願いしたいと私に言っていた人がいました。このような医師がいらっしやるのは私

たちにとつてとてもありがたいことです。



平成28年度 社会参加推進センター開催事業報告

事業名	開催日 / 場所	参加者数	テーマ・内容等
生活訓練開催事業（身体）	7月17日(日) 埼玉県障害者交流センターホール	68名	「障害者差別解消法」 国に対して交渉した経験から分かりやすく講演 講師：松本 正志氏 元全日本ろうあ連盟理事
家族教室開催事業（知的）	9月2日(金) 埼玉県障害者交流センターホール	51名	「ノーマライゼーション条例」を活かそう ～これから私たちの果たす役割り～ 講師：宗澤 忠雄氏 埼玉大学教育学部准教授
家族教室催事業（身体）	10月16日(日) 埼玉県障害者交流センター第1・2研修室	57名	「病と老いを きちんと生きる知恵と工夫」 ～人と向き合う医療現場からの提案～ 講師：小野 充一氏 新都心ホームケアクリニック院長
生活訓練開催事業（身体）	10月20日(木) 与野本町コミュニティセンター多目的ルーム（小）	44名	さいたま市民健康講座 ～認知症・痴呆症を正しく理解するために～ 講師：神崎 好喜氏 介護支援専門員
家族教室開催事業（精神）	10月23日(日) 浦和コミュニティセンター第15集会室	67名	「リカバリーをめざす食事と運動」 精神障害を抱える人が、より良い生活を送る為に 講師：功刀 浩氏 国立精神・神経医療センター 阿部 裕二氏 国際医療研究センター
生活訓練開催事業（精神）	10月30日(日) 浦和コミュニティセンター第15集会室	29名	共に作ろう みんなの輪 PART 9 スリッパ卓球が世界をまぜる ～狂人的に面白い～ 講師：若尾 明子氏 NPO 法人クッキープロジェクト代表理事
生活訓練開催事業（身体）	11月12日(土) 浦和コミュニティセンター第15集会室	25名	第5回 障害があってもありのままに生きたいんです！ ～今を生きる～ 講師：小澤 綾子氏 難病筋ジストロフィー当事者
生活訓練開催事業（知的）	11月13日(日) 浦和コミュニティセンターレクリエーションルーム2	83名	ダンスフォーラム ドリトル先生とゆかいななかま 自閉症・知的障害者の皆さんを中心に楽しい時間を過ごす 講師：アキオ キムラ スタジオ・ダンスフォーラム
「障害者週間」市民のつどい	12月10日(土) 浦和コミュニティセンター10階 浦和駅東口駅前市民広場	1142名	「障害者週間」を記念して広く障害のある人もない人も一緒に楽しむ催し 市セレモニー、障害者作品展 東田直樹氏 講演、 当事者によるダンス、地元一般・大学生・小学生による演奏・合唱 授産品の販売、各団体による企画・相談他
家族教室開催事業（知的）	29年1月20日(金) 埼玉県障害者交流センターホール	30名	災害から障害者の生命（いのち）を守る！ ～それはすべての人々の生命を守ることにつながる～ 講師：郡 信子氏 南相馬市「ディさぼーとぴーなっつ」
生活訓練開催事業（知的）	1月28日(土) 浦和コミュニティセンター音楽室6	73名 体験32名	Let's Enjoy! 「音であそぼう」 スウェーデンの音楽療法 プンネ楽器を利用 講師：藤林 明子氏 プンネ・ジャパン
家族教室開催事業（身体）	1月31日(火) 大宮ふれあい福祉センター301-303会議室	89名	障害福祉サービスから介護保険制度への移行 手続きとサービスをわかりやすい話し言葉で説明 講師：石渡 友邦氏・杉井 伊豆美 さいたま市職員
生活訓練開催事業（身体）	2月12日(日) 浦和ふれあい館第一会議室	76名	「オストメイトのための医療講習会」 展示会 消化管ストーマの実際・ストーマと日常生活 講師：中村 純一氏 さいたま赤十字病院

平成28年度家族教室・生活訓練を終えて

さいたま市障害者社会参加推進事業委員会会長 田口秀之助

さいたま市より家族教室・生活訓練事業の委託を受けて毎年、十団体ほどが事業を開催しています。長年の事業内容の記録を見てみると、それぞれの団体の苦労が判ります。

私の所属している、さいたま市身体障害者福祉協会では創立六〇数年、四団体の連合体です。このためほとんどの会員は高齢者です、関心が深いのは、介護、保険、

年金、古い、病気、また認知症などが話題になります。

保護者の団体でも若い人たちは、子供の教育・就職などでしようが、高齢の保護者は世話ができなくなったときの施設の問題等、記録で読み取れます。

障害の種類も違い、年代によって課題も違ってくるので、難しいこともあります。違いを乗り越え共に手を携えていきましょう。

さいたま市障害者協議会

相談事業について

さいたま市障害者協議会副会長 竹内 政治

さいたま市障害者協議会・相談事業が2月14日行われました。講師は長年ひきこもりの自助グループを運営している鈴木剛さんです。協議会では企画段階から集客率の問題に頭を痛めていました。が、事務局にチラシをたくさん刷ってもらい、三役でいろいろな場

所に置いてもらった結果、とても盛況な講演会になりました。ひきこもり当事者の親御さんが多かったと思います。

講演会の内容は、ひきこもり当事者にかに居場所が大切かを中心に、講師の鈴木剛さんの生きざまや当事者本人の語り、あつと

いう間の時間でした。心配だったのがパワポの接続。パソコン機器に詳しい人も少なかったので、やきもきしました。結局、当事者会ウィーズの石井透さんにお願ひして事なきを得ました。会場は人が多く感じられとても活気がありました。自助グループの様子を動画で観て、こんなことをやっているんだと納得しました。講演会が終わった後、講師の鈴木剛さんの周りには人だかりができていました。それくらい好評な会だったと思います。体験発表をしてくれた当事者の方は緊張していたようです。しかし、生の語りを聴いて、生きづらいのは障害者だけではないんだとつくづく考えました。

こんなに盛況で心に残る会になってひと安心でした。



編集後記

前月号にもありましたが、津久井やまゆり園の事件について書きたいと思います。障害者差別解消法施行からわずか3か月で起きた痛ましい事件です。

「障害者は不幸しか生み出さない」と犯人は言いました。これは、私たち障害者が長年、積み上げてきた安心して生きる権利への挑戦です。亡くなられた19名の方々はそれぞれに個性があり、世界でかけがえない存在だったので。犯人を憎むのではなく許すのでもなく、私たちは暴力に立ち向かう術を考えつづけてみましょう。

(竹内)



発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒330-0801

さいたま市大宮区土手町

1-11-1

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三三一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

bz03plala.or.jp

発行・編集人 田口 秀之助